

摘しています。例えば、タクシーの運転手が、会場を知らないといったようなこともありましたが、秋田県では、その点、横断幕や看板を立てるなどの宣伝に努めるなど、関心も日一日と大いに高まっています。施設のいたらないところは「まごころ」で迎えることで、皆さんにもお願いしたいと思っています。ところで、皆さんは全員、名古屋会場を視察されたのでしたね。どうでしたか。



大川 くん

大川・視察は一班、二班に分れて行き、ぼくと川島くんが一班で行きました。ところがまだ開会前で練習風景しか見れず、肝心の接待はわかりませんでした。

川島・僕も思うように見れなかったんですが、その中で、現地の高校訪問があったんです。そこはホッケー競技の会場になっていて、生徒会を含めた推進委員は非常によくやっているようでした。でも、一般生徒はというと、活動内容をよく把握していない感じが強く、ちよつとちぐはぐなんです。そこで、自分たちの場合は、生徒みんなに行き届くよう努めなければと思いました。

樋口・確かにそういう点はありましたね。自分の役割をよくわかっていないから、よその会場のことを聞かれてもチンプンカンプンだったりで。秋田の場合、人数は

さらに少なくなるわけですけど、それぞれ積極的に対応できるようにしなくちゃいけないと思います。それと、気付いたことですけど、大館の街並みというのは、名古屋と比べると随分汚れているという、雑な感じを受けました。

田川・名古屋の高校生の人たちは、よくゴミ拾いをしていました。これはマナーなければいけない点だと思いました。あと、駅の案内所が全然目立たず、どの種目をどの会場で行っているのかわからず、戸惑っている人も多かったようです。

市長・私もそれを感じましたね。案内に付く人には是非、主会場はもちろん練習会場、宿泊所、市の施設についても案内できるようにしてほしいですね。

田村・宿舎については、詳しく書いたものをもらいよかったです。それと、受付の人たちが笑顔であいさつしてくれて、とても気持ち良かった思い出があります。

蛇川・あちらでは、みんな標準語で話してくれ、よくわかったんですが、全国から人が集まるのだから大館だけではわからないと思うので、わかるようにしていけない言葉遣いが大事だと思うんです。



蛇川 さん

司会・あまり秋田弁を隠したり必要以上に気にかけることはないと思いますよ。ああ、秋田へ来たんだなとか、秋田弁はおもしろいなとか感じるかもしれません。それに、皆さんの言葉を聞くと、ほとんどの人がきれいな言葉を遣えるようになっていく。

市長・わたしは秋田弁ですけど、もし分からなかったら聞き直してください。でも言えば、かえって親切で感じがいいんじゃないでしょうか。下手な標準語を使うよりも。

選手に大館の料理を食べてもらつては

大川・ところで、名古屋人は合理的なものの考え方をすると聞かれました。自分のことだけやって全体を成り立たせるんだと。でも、これでは連帯性に欠ける気がします。

市長・すべてのことに言えると思いますが、職場では分担された自分の仕事だけすればいいという考えは間違いです。野球でも、例えば投手はただ投げればいいというものではないでしょう。次はカブを投げるから、打たれたらどつちの方向にボールは飛ぶといった連係があつて始めて、野球は成り立ちます。難しいでしょうが、頑張ってください。

田川・市では、どういう形で市民にアピールする予定ですか。

司会・今は看板を二枚かけています。四月からは横断幕、歓迎塔案内板などを市内各地に立てるほか、広報二月号から各高校にインターハイに対する心構えなどを書いてもらい載せる予定です。もうひとつ、皆さんから募集したサブ

スローガンによるPRも考えています。



樋口 くん

樋口・旅館の食べ物というところ、関西の人なんかは薄口だから、こつちのしょっぱい味にはガマンできないと思う。食べる食べないは直接競技にも影響してくるから、十分気配りしなければいけない点だと思います。また、せっかく大館に来たのだから、最後の日にでも「キリタンポ」とか、大館の料理を食べてもらつたらどうでしょう。

市長・選手の食事管理については、各県ごとに旅館と相談していただき、口に合うよう調整してもらわなければいけませんね。

ムードは徐々に盛り上つてます

司会・ところで、各高校での生徒のインターハイに対する反応はどうですか。

大川・生徒会では話し合われていますが、一般生徒にはよく伝わっていないようです。

樋口・いまいち、関心は高まっていると思います。大館では水球とウエイトリフティングのことですけれど、もっと人気のあるバスケットとかバレーといったものが来れば、もっと違ったんじゃないかと思っています。

◆漆原啓子

小学校五年生のとき全日本学生音楽コンクール西日本大会で一位。中学三年生のときは日本音楽コンクール三位、五十六年十月、ポランドのウイニアウスキー国際ヴァイオリン・コンクール(ピアノのショパンコンクールと並び称されている)で、日本人として初めて第一位に入賞。現在、東京芸術大音楽部に在学中です。



とき・59年1月20日(金)

午後6時30分

ところ・市民文化会館中ホール

漆原啓子

ヴァイオリン リサイタル

ピアノ・長尾洋史

入場料・1,500円(全席自由)

プレイガイド・1月6日から市民文化会館だけで発売

へ演奏曲目

ウイニアウスキー作曲

華麗なるポロネーズ

スケルツォ タランテラ

フランク作曲

ヴァイオリンソナタ

イ長調

シューベルト作曲

ソナチネ

チャイコフスキー作曲

ゆううつなセレナード